

| | | | | | | | |
|--------------------|---|----------------------------------|----|-----|---------------|--------|----|
| 科目名 Course Name | 点字 Braille | | | | ナンバリング No. | J1-004 | |
| 年次 | 1年 | 期別 | 前期 | 単位数 | 1 | 授業形態 | 演習 |
| 担当者氏名 | 久保 由佳 | | | | | | |
| 連絡方法 | C-Learning で対応。または福祉棟 2F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。 | | | | | | |
| 必修/選択 | 選択(介護福祉士養成課程必修) | | | | | | |
| 関連 DP | DP1, DP2, DP4 | | | | | | |
| 授業の概要と到達目標 | <p>視覚に障害のある人の基本的な文字である点字の知識や技能を習得し、視覚に障害のある人とのコミュニケーションについて学習する。また、指点字を含めた盲ろう重複障害のある人とのコミュニケーション全般に関する知識も深める。点字の学習を通して、視覚に障害のある人の生活を支援するための技術へとつなげる。</p> <p>①点字一覧を見ずに、点字を書くことができるようにする。 ②基本となる点訳の規則を覚え、文章および手紙を点訳できるようにする。 ③点字表記を凸面から読むことができるようにする。 ④点字の学習を通して、視覚に障害のある人の情報障害を説明できるようにする。 ⑤視覚に障害のある人の QOL (生活の質) を高める支援ができるようにする。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 実技形式の授業であり、点字を書くことが中心となる。点訳の規則等は板書やパワーポイントを使い講義する。また、内容によっては、VTR の視聴やグループ演習も行う。 | | | | | | |
| 学習成果 | L01 | 点字および点訳の基本的技術を習得し、点字の読み書きができる。 | | | | | |
| | L02 | 視覚に障害のある人と円滑にコミュニケーションをとることができる。 | | | | | |
| | L03 | | | | | | |
| | L04 | | | | | | |
| 課題に対するフィードバック | 課題と小テストは、添削後、各自に返却する。状況によって、解説や個別指導を行いながらフィードバックする。 | | | | | | |
| 教科書/参考図書 | 必要に応じて資料を配布する。 【参考図書】「初めての点訳」全国視覚障害者情報提供施設協会 | | | | | | |
| 履修上の留意点やルール等 | ●実技指導上、座席を指定する。履修者確定後、説明する。●小型点字器と点字用紙を購入する。(1500 円程度、点字器を持っている学生は用紙のみを購入する。)購入に関する詳細は授業で説明する。●教材以外のものは机上に置かない。●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分とする。 | | | | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | | | | | |

| 成績評価の方法と基準 | | | | | |
|------------|--|---------|-----|-----|-----|
| 評価の領域 | 評価基準 | 学習成果の割合 | | | |
| | | L01 | L02 | L03 | L04 |
| 授業参加態度 | S 評価は、①点字器と点字用紙を毎回準備している。②授業に集中し、必要なことはノートにとっている。③積極的に取り組んでいる。 | | 10 | | |
| レポート/作品 | 課題文の点訳を課す。S 評価は、正しく、凸面から読みやすい点字が書けている。点訳の規則に沿って分かち書きをしていること。 | 20 | | | |
| 発表 | | | | | |
| 小テスト | ①第 4 回目 (10%) : 単語を点字で書く。指定した参照物のみ持込可。 ②第 10 回目 (20%) : 墨字文章を分かち書きし、点訳する。試験範囲は第 7 回目までの学習内容。参照物等の持込は不可。 | 30 | | | |
| 試験 | 墨字文章を分かち書きし、点訳する。参照物等の持込は不可。 | 40 | | | |
| その他 | | | | | |
| 合計 | | 90 | 10 | | |

| 回数 | | 授業計画 |
|----|---------|--|
| 1 | 授業内容 | ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法など) 点字器の貸出しおよび借用書の記入、標準点字盤の使い方、点筆の持ち方 |
| | 事前・事後学習 | 標準点字盤の使い方(点字用紙のあて方、定規の使い方、点筆の持ち方)と留意点をノートに書き、点字盤をセットできるように覚える。 |
| 2 | 授業内容 | 五十音の学習①(五十音の基礎) |
| | 事前・事後学習 | 五十音を点字で書く。 |
| 3 | 授業内容 | 点字の歴史と理論(点字の考案・構成)、点字の特徴、視覚障害とは 五十音の学習②(簡単な単語うち) |
| | 事前・事後学習 | 点字の歴史について、文献やインターネットを活用して調べ、ノートにまとめる。 五十音を点字で書く。五十音表を見ずに点字が書けるように暗記する。 |
| 4 | 授業内容 | 濁音・半濁音・長音・促音の学習、簡単な文章の分かち書きと行替え・行移しの仕方 <小テスト①> |
| | 事前・事後学習 | 練習問題を繰り返し点訳する。文章点訳時の留意点(約束事)をノートにまとめる。 |
| 5 | 授業内容 | 拗音・拗濁音・拗半濁音・句読点の学習とそれらを含む短文うち 点訳の規則および留意点、小型点字盤の使い方 |
| | 事前・事後学習 | 練習問題を繰り返し点訳する。分かち書きのポイントをノートにまとめる。 |
| 6 | 授業内容 | 数字の学習と文章の点訳 |
| | 事前・事後学習 | 練習問題を繰り返し点訳する。自分の学籍番号と氏名を点字で書く。 |
| 7 | 授業内容 | 囲み記号(カッコ類)の学習と文章の点訳 【レポート1:障害の理解に関する文章の点訳、提出は次回授業時】 |
| | 事前・事後学習 | 練習問題を繰り返し点訳する。レポート1の課題文を点訳する。点訳後は誤字の有無などを見直し、間違っている箇所は修正・打ち直す。 |
| 8 | 授業内容 | 各種記号の学習と短文うち |
| | 事前・事後学習 | 練習問題を繰り返し点訳する。自分で分かち書きをし、短文を点訳する。 |
| 9 | 授業内容 | 見出しの書き方、点字文法(分かち書き)の学習と文章の点訳 |
| | 事前・事後学習 | 練習問題を繰り返し点訳する。レポート1の添削内容に応じて、これまでの配布資料を読み返す。 |
| 10 | 授業内容 | 文章の点訳(基本となる文字や数字を含む文章) <小テスト②> |
| | 事前・事後学習 | これまでの練習問題や課題文を使い、自分で分かち書きをし、点訳する。自分の学籍番号と氏名を点字で間違えずに書く。 |
| 11 | 授業内容 | 特殊音の学習と短文うち、小型点字器を使った名刺への点字表記 【レポート2:障害のある人の支援に関する文章の点訳、提出は次回授業時】 |
| | 事前・事後学習 | 小テストの添削内容に応じて、これまでの配布資料を読み返す。レポート2の課題文を点訳する。点訳後は誤字の有無などを見直し、間違っている箇所は修正・打ち直す。 |
| 12 | 授業内容 | 手紙の書き方、点字郵便物の取り扱いと郵送方法、公文書の書き方 |
| | 事前・事後学習 | 点字で手紙を書く。レポート2の添削内容に応じて、これまでの配布資料を読み返す。 |
| 13 | 授業内容 | アルファベットの学習と墨点字による練習 凸面読みおよび日常生活におけるユニバーサルデザイン製品 |
| | 事前・事後学習 | 日常生活の点字表記を探し、凸面から読む。練習問題や課題文を繰り返し点訳する。 |
| 14 | 授業内容 | 視覚障害のある人の日常生活とコミュニケーション(映画「桜色の風が咲く」視聴) |
| | 事前・事後学習 | 映画の視聴を通して、視覚障害のある人に対する支援や障害のある人と共に暮らしていくことについて、できることをノートにまとめ、実践する。 |
| 15 | 授業内容 | 盲ろうとは、指点字、クロックポジション、コミュニケーション福祉用具の知識 |
| | 事前・事後学習 | 日常生活の中でクロックポジションによる説明を練習し、練習した日時、場面、改善策をノートに記録する。情報支援に関する福祉用具や機器について、文献やインターネットを活用して調べ、ノートにまとめる。 |